

事務事業評価シート（評価対象年度：平成30年度）

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		道路新設改良事業				②事業番号		5105	
③事業類型		5. 普通建設事業		④開始年度		— 年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		法令		要綱		○ 計画等		その他 法令等の名称	
⑦実施手法		直営		全部委託		○ 一部委託		補助・負担	
⑧関連予算科目コード		款		7		項		2	
⑨担当部名		都市整備部		⑩担当課名		道路課		会計	
								一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1) 対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 道路利用者		① 新設計画延長		m	
②		② 改良計画延長		m	
(2) 事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
平成30年は工事発注により、以下の事業を実施した。 改良整備延長 L=41m 又、以下の用地買収を行った。 用地買収面積 A=675㎡		① 新設整備延長		m	
		② 改良整備延長		m	
		③			
(3) 意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
安全性・利便性を向上させる。		① 当該年度整備率(新設)		%	
		計算式 新設整備延長/改良計画延長			
		② 当該年度整備率(改良)		%	
		計算式 改良整備延長/改良計画延長			
		③			
(4) 結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
生活に密着した生活道路(狭い道路)の拡幅や機能向上等が実現できる。		政策(章) 5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち			
		施策大(節) 2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします			
		施策中 1 道路の整備			
		施策小 2 身近な道路の整備			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	新設計画延長	m	0	0	0	0	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	改良計画延長	m	202	330	41	0	—	
活動指標①	新設整備延長	m	0	0	0	0	—	
活動指標②	改良整備延長	m	202	330	41	0	—	—
活動指標③								
成果指標①	当該年度整備率(新設)	%	0	0	0	0	—	
成果指標②	当該年度整備率(改良)	%	100	100	100	0	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.40	0.37	0.25	0.25		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		H28年度において新築駅前ロータリー整備を行ったため、事業費が増となっている。
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	3,213	2,971	2,027	2,027		
	直接事業費	千円	60,238	27,464	31,149	14,751		
	総事業費	千円	63,451	30,435	33,176	16,778		
財源内訳	国庫支出金	千円	29,305	13,622	2,250	4,000		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	11,900	11,100	25,245	7,550		
	一般財源	千円	22,246	5,713	5,681	5,228		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	市内の生活道路を改良することにより、道路利用者の利便性の向上及び安全で快適な機能向上を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	限られた予算で成果向上を図るため、より効果的な整備手法を検討し、工夫することが必要である。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	道路を改良することにより、生活の利便性が向上する。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	道路は公共インフラであり、安全性・利便性を向上させることは市の責務である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	市民のニーズは高く、現状の事業費規模では、十分に伝えられていない。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	利用者が不便や危険を感じ、住みやすいまちづくりが達成できない。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

B

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	狭あいな部分が拡幅されるなど、安全で快適に道路が利用されている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	国庫補助金の更なる活用を検討し、成果の向上を目指す。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	従前から引き続き、コスト削減に努めている。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	交付金(国費)を積極的に活用している。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	引き続き道路利用者の安全性・快適性の向上を図り、また交付金が活用できるところは積極的に活用し、財源の確保に努める必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—